境界のしつらえ

- 東京都足立区千住の景観記録 -

cy13030　直江莉奈
指導教員　前田英寿
副査　谷口大造

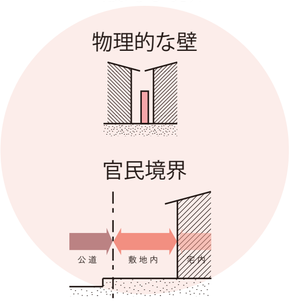
1. 研究の目的と背景

日本の町は敷地が狭く建築密度が濃い。お互いの領域を守るため、道路と宅地、隣合った住宅同士、公と私など境界が重要となる。図面や地図で明確に線が引かれているその境界を実見すると、暗黙の了解の中で、片方がはみでていたり、相互に介入していたり曖昧である。それは日々の暮らしの中で住む人の工夫であり、知恵から生まれる境 界のしつらえであり、地図や図面からは読み取る事が出来ない空間の質といえる。本研究では計画的に生まれたものではなく、住まい手が日々の生活の中で工夫した”境界のしつらえ”に着目し、実際にフィールドワークし、スケッチして分析することで都市の断片を記録し考察する。

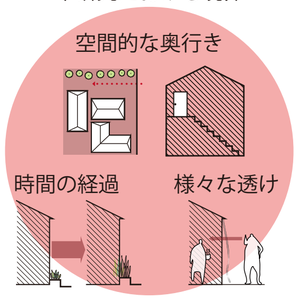
2. 本研究における境界の定義

境界は一般的に、官民境界や公と私の境界、敷地境界のように物理的に壁で仕切られていたり線引きすることで明確化されているものである。しかし本研究では境界は線引き出来るものではなく、空間的に広がりをもっていたり、見えるけれど入れないといった様々な透けがあり、時間の経過の中で人々の暮らしの工夫や知恵から変化するものと捉える。

一般的な境界

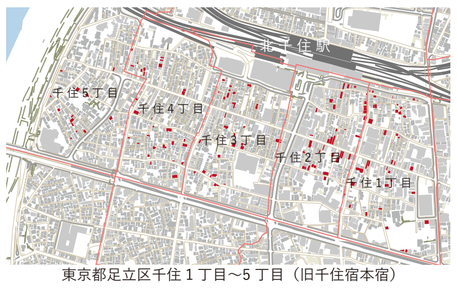


本研究における境界



3. 対象敷地

対象敷地として、高密市街地には採取すべきサンプルが豊富にあると考えたため、対象敷地を高密市街地に限定した。その中で、千住宿として栄えた過去と、文教都市になりつつある現在を合わせもち、商業と住環境の混在する町として雑多な風景が混雑している北千住を対象敷地とする。



東京都足立区千住１丁目～5 丁目（旧千住宿本宿）

△駅前の東京電機大学

◁下町風情が残る
宿場町通り商店街

4. 抽出方法

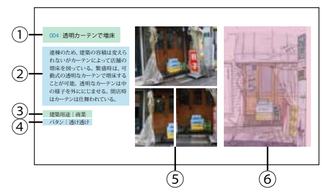
建築と建築の境界、道路と敷地の境界、(官民境界、道路境界、隣地境界) といった境界に付随する建築、宅地、半屋外空間、付帯物など物理的環境 (都市の部材) 全てである。対象地区である千住１丁目～５丁目を実際にフィールドワークし、図を起こし、148 個の境界を抽出した。図録の並び順は私が歩いた時系列に沿っているため、並び順に恣意性はない。地図や図面からは読み取る事の出来ない、人の目線から発見した境界のしつらえを記録していく。

抽出方法

1)　対象敷地を調べる。
2)　東京都足立区北千住を歩き、気になった“都市の部材”を採取していく。(写真撮影)
3)　観察・調査 : 見つけたサンプルに対して魅力を伝えるドローイングを作成する。
4)　サンプルを分類する。

5. 千住境界図録

千住境界図録に記載したサンプル 148 個を境界分布、付随する建築の用途、境界の特徴といった項目別に以下の一覧表にまとめる。サンプルが持つ境界は様々な特徴をもち、8 つに分類可能であった。



1) 地図上にプロットされた番号とタイトル
2) 境界に対する説明
3) 境界に付随する建築の用途
4) 境界の類型 (パタン) 化
5) 撮影した写真
6) 魅力を伝えるドローイング

千住境界図録サンプルページ

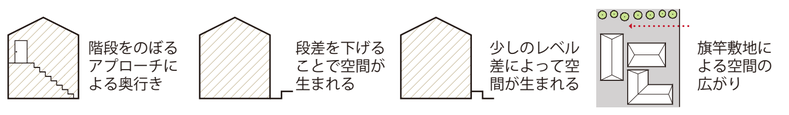
表 千住境界一覧表

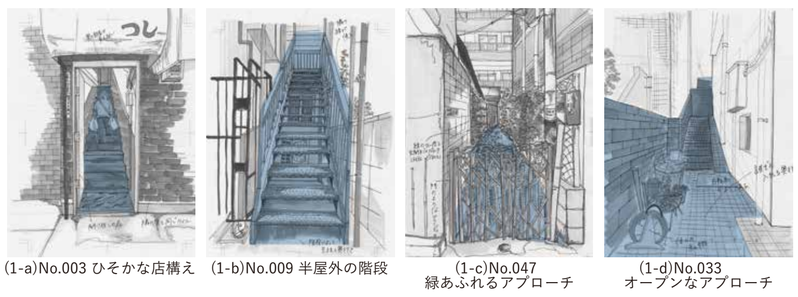
No.	タイトル	分布	建築の用途	類型(パタン)化							
				奥行き	しきり	クッション	トンネル	透け透け	小さな緑	三角コーナー	あふれ出し
No.1	引いて下がった玄関	千住1丁目	商業	○							
No.2	凹んだアパートの入口	千住1丁目	住宅	○							
No.3	密かな店構え	千住1丁目	商業	○							
No.4	透明カーテンで増床	千住1丁目	商業					○			
No.5	半開のシャッター	千住1丁目	住宅		○				○		
No.6	透明カーテンで増床2	千住1丁目	商業					○			
No.7	道路の脇で席待ち	千住1丁目	商業								○
No.8	囲まれた玄関	千住1丁目	住宅			○					
No.9	半屋外の階段	千住1丁目	住宅	○							
No.10	三角玄関	千住1丁目	住宅							○	
No.11	三角コーナーに駐	千住1丁目	住宅							○	
		千住5丁				○					
No.143	玄関前で物干し4	千住5丁目	住宅			○					○
No.144	透け倉庫	千住5丁目	商業					○			
No.145	車道まであふれ出し	千住5丁目	商業								○
No.146	一段プラス	千住5丁目	住宅			○					
No.147	緑あふれるアプローチ	千住5丁目	住宅	○					○		
No.148	くり抜かれた玄関	千住5丁目	住宅			○					

8つの類型（パタン）化

境界調査で収集したサンプルを分析し、空間的に奥行きを持つもの、物理的に敷地を仕切るもの、段階的に空間の特徴を変えていくもの、視覚的に見えるけれど侵入不可能なもの、不整形なもの、境界を曖昧化する緑、境界線を越えてはみだしているものなど、抽出した境界を 8 つの特徴について類型（パタン）化と定義付けを行い、概念図等を用いて考察する。

(1)奥行き　空間の広がりによって生まれる境界

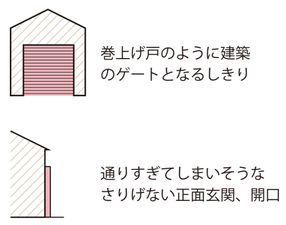




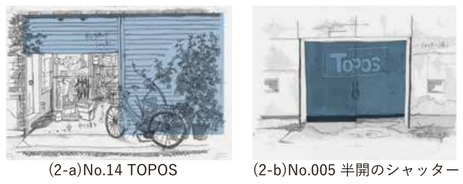
(1-a)No.003 ひそかな店構え　(1-b)No.009 半屋外の階段　(1-c)No.047 緑あふれるアプローチ　(1-d)No.033 オープンなアプローチ

旗竿敷地では、公道にアコーディオンゲートや、ポスト、柵を設置し、他者の侵入を防ぐ場合（1-c）と、旗竿の奥に柵やポストを設置して手前のアルコーブを誰でも侵入可能にする場合（1-d）の 2 種類のタイプに分けられた。
多くの店舗、住宅で階段や段差、旗竿敷地による奥行きをうむことが必要とされていた。２章で集めたサンプルの中でも、奥行きの要素を持つサンプルは最も多く 50 個であった。建築の用途に関係なく敷地が狭く、建築密度の高い北千住だからこそ、公から私空間への段階的な動線計画が求められているためと考える。

(2)しきり　物理的な障害物によって生まれる道路と敷地の境界



シャッターが半分開いていることで中の土間空間の様子が見えたり（2-a）、シャッターという機能とともに壁面全体を看板のように使ってその独自性を主張する例がある（2-b）。
しきり自体が空間を分割する障害物であるため、他のパタンとの関連性は希薄である。

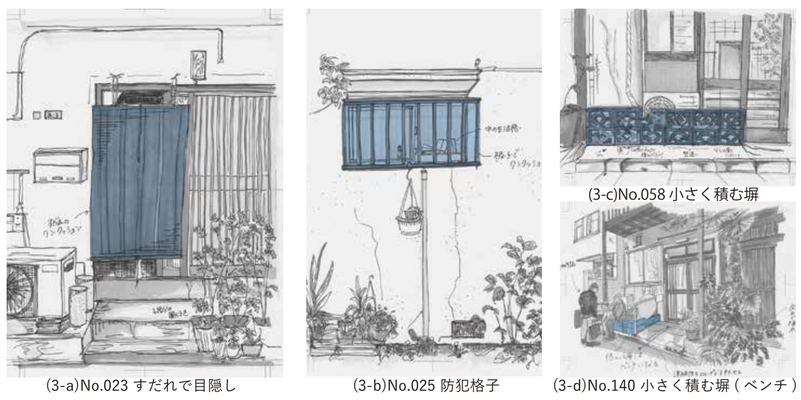


(2-a)No.14 TOPOS　(2-b)No.005 半開のシャッター

(3)クッション　建具、開口と独立した付帯物によって生まれる境界

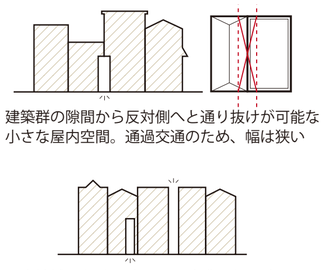
クッションのスケッチ

細かい区画整理、狭地の敷地一杯に建築することから、隣地との距離、窓と通行人の距離が近い北千住。プライバシーを守るため、防犯の為に窓に上から布をかぶせたり、格子野設置や簾をかける住宅（3-a,b）が多く見られた。商店街の近くの住宅はブロック塀を積んで低い塀を作り、公から私空間への段階的変化を作っていた。（3-c）低いブロック塀はささやかに境界をつくりつつも、楽に座れるようになっており、ストリートファニチャー）としての機能も併せ持つ。（3-d）



(3-a)No.023 すだれで目隠し　(3-b)No.025 防犯格子　(3-c)No.058 小さく積む塀　(3-d)No.140 小さく積む塀 (ベンチ)

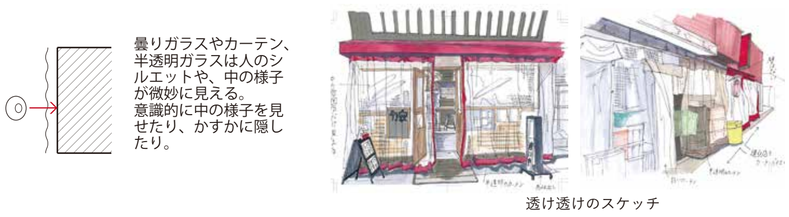
(4)トンネル　密集した建物の凹凸によって生まれる境界



高密度な建築群が招いた屋外街路空間の不足を解消するために、本来ならば奥内の抜け道や通路である空間を街路に置き換えている。

(2-a)No.037 脇道カウンター　(2-b)No.036 光、風がもれる

(5)透け透け　半透明のガラスやカーテンで作られた柔らかい境界

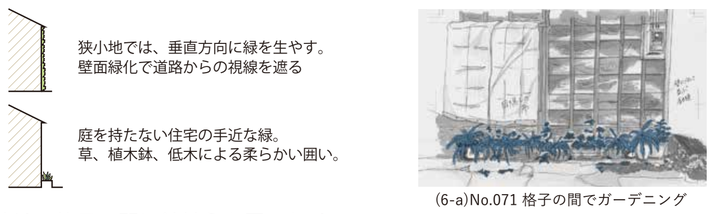


透け透けのスケッチ

可動式の透明なカーテンを設けることで店舗の増床をしたり、曇りガラスの開口は屋内空間と外とをゆるくつなげる (5-a)。お客様の目線と同じ高さにくもりガラスシールを設置することで外からの視線を遮る例（5-b）も見られた。敷地の狭い店舗は接道面に半透明のカーテンを設置し、繁盛時には外をカーテンで覆う事で半屋外空間をつくることで増床を図っていた。（5-c）

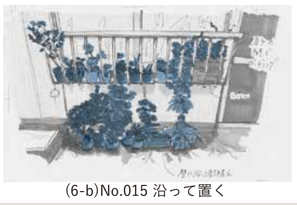
(5-a)No.056 匂いがもれる　(5-b)No.074 シルエットが見える　(5-c)No.006 透明カーテンで増床

(6)小さな緑　垣根や植木による境界



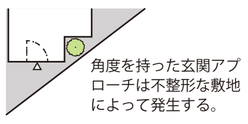
(6-a)No.071 格子の間でガーデニング

住人達は、格子の間に鉢植えを置いたり（6-av）壁に鉢植えをかけたり、鉢植えを敷地に沿って置くことではみ出していることを誤魔化し、ガーデニングを楽しんでいる（6-b）。
密集した建築の圧迫感から緑によってのどかな安らぎをもたらしたりする心理的効果だけでなく、鉢植えによって領域を柔らかく仕切ったり。

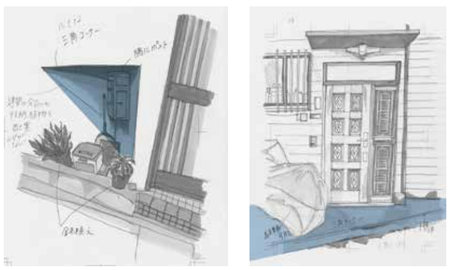


(6-b)No.015 沿って置く

(7)三角コーナー　全面道路に対して不整頓に建られた玄関（建築）

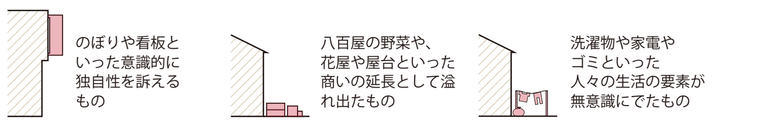


三角の規模は建築の余白に鉢植えと垣根を植える小さなもの（7-a）から大型バイクを駐輪するスペースが確保できる程大きいもの (7-b) から様々である。

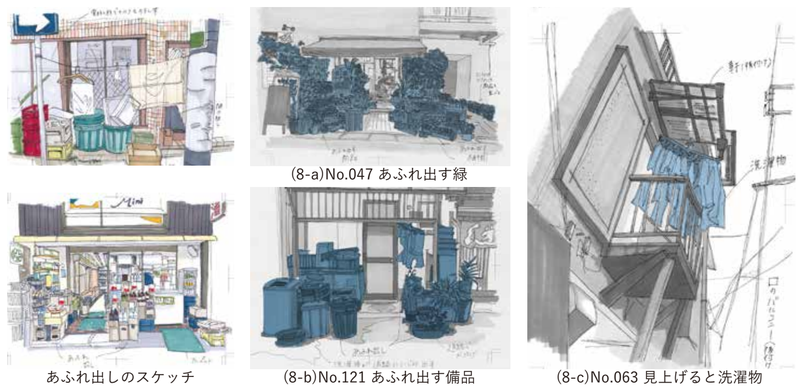


(7-a)No.126 三角の余白　(7-b)No.011 三角コーナーに駐輪

(8)あふれ出し　人々の生活に関する要素が街路にはみ出すことによる生活空間と道路空間の境界のあいまい化



1 丁目から 5 丁目の「あふれ出し」が占める割合は平均で 30 パーセントとなった。北千住は商業、住宅といった建築の用途に関わらず、敷地内に収まりきらないものであふれでている町である。商品が公道にあふれ出すだけでなく（8-a）、ばんじゅうや商業の溢れ出しの中に洗濯物や生活の要素が紛れている(8-b)。通常は暮らし（洗濯物やゴミ）を他人に見られたくないという心理のように私空間と公道は分割するが、下町で商業を営む人達は無意識の内に商いとともに生活の要素も外にあふれ出す。商業と住宅の混合が顕著な千住地区ならではのあふれ出しである。人々の生活の要素がのぼりや看板のように頭上にあふれ出ている例も見られた (8-c)。



(8-a)No.047 あふれ出す緑　あふれ出しのスケッチ　(8-b)No.121 あふれ出す備品　(8-c)No.063 見上げると洗濯物

6. パタンの関係性

建築をくり抜いてできたアルコーブ（奥行き）の接道面に腰あたりの高さの柵（クッション）が設置されているようにサンプルには複数のパタンを併せ持つものがある。例えば「クッション」は「奥行き」を持った私空間が他者に侵入されないために、住人がしつらえた障害物（バリア）である。格子や柵といった建具、開口と独立した付帯物によって生まれる中間領域的空間で公道と私空間を明確に区切る。

一見正反対の要素の「奥行き」と「あふれ出し」の関連性が高い（18%）のは、間口が狭く奥行きを持った店舗がのぼりや黒板を公道にあふれ出すことで意識的に店舗の独自性を外へ訴えている事例が多かったためである。
敷地が狭く建築密度の濃い北千住では、奥まった店が多く、あふれ出しで宣伝したもの勝ちのようになっていた。

No.148 くり抜かれた玄関

表 パタンの関連一覧表

	奥行き(51)	しきり(15)	クッション(38)	トンネル(3)	透け透け(20)	小さな緑(38)	三角コーナー(11)	あふれ出し(37)
奥行き(51)		2	3	0	4	12	2	7
しきり(15)			1	0	2	2	1	0
クッション(38)				0	1	19	0	5
トンネル(3)					0	0	0	0
透け透け(20)						1	0	4
小さな緑(38)							4	4
三角コーナー(11)								1
あふれ出し(37)								

境界のパタンは独立して機能するものではなく、それぞれが組み合わさることでより魅力的な空間のしつらえが誕生すると考える。

7. ケーススタディ

作成した類型（パタン）化に基づいて対象建築にパタンを落とし込んで考察する。

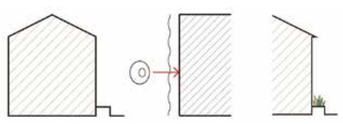
対象建築は駅前から徒歩 5 分の距離にある東京都足立区千住 2 丁目の商業ビル。セットバックされているが公開空地は利用されておらず、がらんどうである。

対象敷地　scale_1:2000

対象建築：商業ビル

ケーススタディ A

既存の「シャッター」から「スケスケ」への転換、北千住で最も使われていた「奥行き」「ちいさな緑」の要素を挿入し、実験する

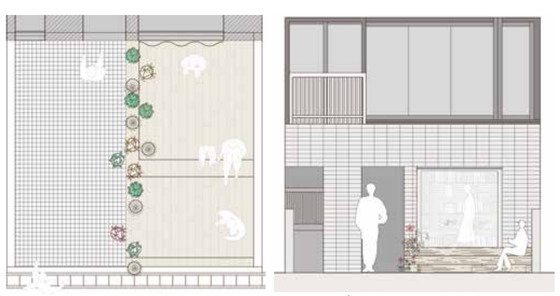


挿入した境界のダイアグラム

ここでは

「奥行き」
3 段分のウッドデッキ
「透け透け」
半透明のカーテン
「ちいさな緑」
鉢植え

として設置した。



平面図　scale_1:100　立面図　scale_1:100

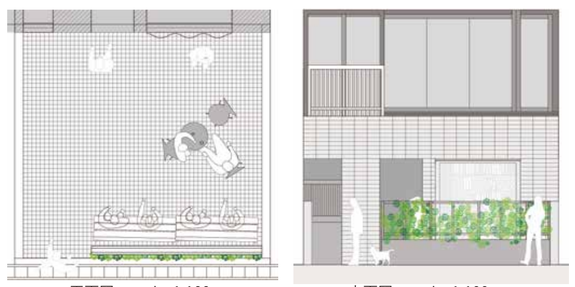
ケーススタディ B　既存の「シャッター」から「スケスケ」への転換、「奥行き」「ちいさな緑」の要素を挿入し、実験する。

ここでは

「クッション」
接道面にステンレス製フェンス

「ちいさな緑」
つる植物

として設置した。



平面図　scale_1:100　立面図　scale_1:100

8. おわりに

本研究では対象敷地の北千住がどのように境界が曖昧化されているのか、建築と建築の境界、道路と敷地の境界に付随する建築、宅地、半屋外空間、付帯物など物理的環境 (都市の部材) 全てを対象として、実見した景色を図に起こし、148 個のサンプルを集めた。これらの境界は様々な特徴を所持していることが確認された。
148 個のサンプルの内、「奥行き」は 51 個、「しきり」は 15 個、「クッション」は 38 個、「トンネル」は 3 個、「透け透け」は 20 個、「小さな緑」は 38 個、「三角コーナー」は 11 個、「あふれ出し」は 37 個といった 8 つの特徴別に分類可能であった。
　8 つの類型を定義し分析した結果、図面や地図からは読み取る事の出来ない曖昧化された境界は、単独なものではなく複数の境界パタンが組み合わさり相互に影響し合う事で、より魅力的な空間のしつらえとなると考える。

参考文献

1) 田村裕 / 武蔵野美術大学出版局 / デザインリサーチ
2) 今和次郎・吉田謙吉 / 東京考現学図鑑 /Gakken
3)C・アレクサンダー / パタン・ランゲージ / 鹿島出版会